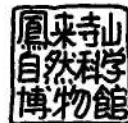


博物館物語 - その4 - 平成の市町村合併



平成6年 (1994) 特別展「開館30年の歩み」開催(1月20日~8月31日)
友の会費改定:おとな1,000円、こども700円、家族会員3,000円

平成7年 (1995) 「鳥居喜一寄贈東三河の植物標本目録」刊行(3月30日)
黄柳野高校開校(4月15日)、第1回友の会総会開催(6月24日)

平成8年 (1996) 友の会会報「瑠璃山」創刊(5月12日)
鳳来町長篠向林の河川工事で中央構造線主断層の露頭出現、レオリカ展示(6月30日)

平成9年 (1997) 消費税5%(4月1日)、酒井榮吾先生の岩石標本類受入(5月13日)
サッカー-日本代表ワールドカップ初出場(11月16日)

平成10年 (1998) 長野冬季オリンピック開幕(2月7日)、藤城豊先生収集の化石・津具金山関係資料受入(4月30日)
友の会行事「梅雨のきのこ観察」開始、コハズク生息調査・巣箱設置開始 以後継続中

平成11年 (1999) 博物館ホームページ開設(1月1日)、もみじまつりイベント「博物館感謝祭」開始(11月23日)
「町ごと屋根のな」博物館シンポジウム開催(12月4日)

平成12年 (2000) 有珠山噴火(3月31日)、三宅島噴火・全島民避難(9月1日)
友の会25周年記念式典開催(11月3日)、「はくぶつかんだより集 1-54」発行

平成13年 (2001) 博物館法制定50周年記念「いこまい愛知のミュージアム」展共同開催(7月14日)
友の会行事「館長と歩く鳳来の自然」開始(12月22日) 以後シリーズ化

平成14年 (2002) 博物館耐震診断(7月31日)、「子ども自然講座」開始(平成23年まで開催・年3回)
「先生のための自然と博物館利用講座」開始(平成17年まで開催・年3回)

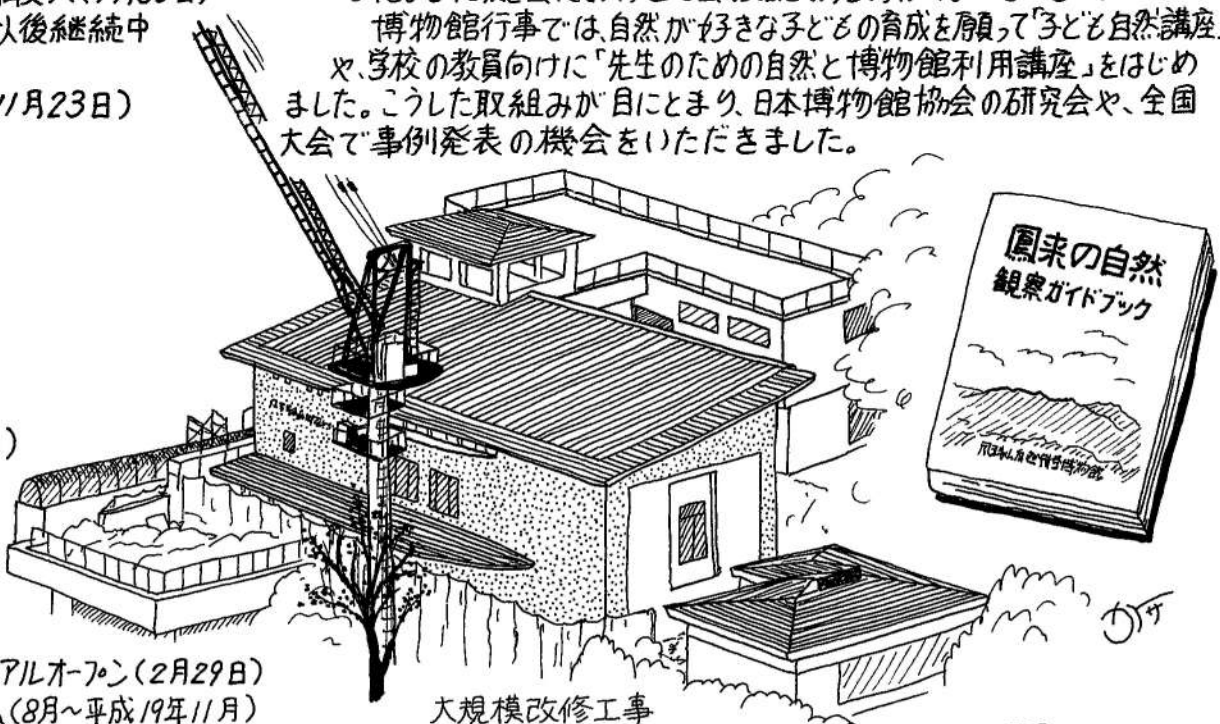
平成15年 (2003) 博物館の大規模改修(耐震補強)工事(7月19日~12月5日)、博物館協働隊結成
臨時休館(9月1日~平成16年2月28日)、友の会のレオリカ会員制導入・734名

平成16年 (2004) 開館40周年記念式典開催、「鳳来の自然・観察ガイドブック」発行(2月28日)、リニューアルオープン(2月29日)
博物館内部改修工事(12月11日~平成17年2月11日)、仲井豊先生の岩石標本受入(8月~平成19年11月)
日本博物館協会自然史部門指導者研究協議会で「市民とともにつくる博物館」の事例発表(12月17日)

平成17年 (2005) 愛・地球博開幕(3月21日~9月25日)、「大阪市自然史博物館友の会サミット2005」参加(8月13・14日)
鳳来町が新城市、作手村と合併し新制「新城市」誕生(10月1日)、友の会30周年記念式典開催(11月6日)
全国博物館大会で「鳳来寺山自然科学博物館友の会」の事例発表(11月18日)、友の会員917名

平成18年 (2006) シュニアアナチュラリスト養成素級「めだかの学校・川ガキ教室」開始(平成24年まで開催・年5回)
「はくぶつかんだより収録集2(No.55~110)」発行(3月30日)

平成19年 (2007) 夏休み自由研究相談会開始(7月20日~8月31日)
新城ライオンズクラブから博物館入口の木製看板寄贈(9月29日)



開館31年目の平成6年には、友の会員が384名になりました。博物館活動に関心の高い会員が増えたことで、この年の野外学習会には805名(内会員700名)の参加がありました。

植物庫に鳥居植物標本が収納されたことにより、学術委員の牧野彦二先生が標本の整理と登録を受けとってくださいました。昭和59年6月から、11年の歳月をかけ、追加分も含めて約3万数千点の作業を終え、「鳥居喜一寄贈東三河の植物標本目録」を完成させました。

会の会では、会独自の行事として「きのこ観察会」や「館長(横山)と歩く〇〇の自然」を企画し、人気のイベントになりました。また総会にあわせて会報誌の発行がはじまりました。

博物館行事では自然が好きな子どもの育成を願って「子ども自然講座」や、学校の教員向けに「先生のための自然と博物館利用講座」をはじめました。こうした取組みが目にとまり、日本博物館協会の研究会や、全国大会で事例発表の機会をいただきました。